

削除データの値表示の実行（フラッシュバック・クエリ） 削除テーブルのオブジェクト自体の復元（フラッシュバック・ドロップ）

データを削除してしまった場合の処置についての考え方

誤ってデータを削除した場合の対処は、フラッシュバック・クエリでデータを戻すことができます

しかし、~~他のレコードとの整合性の関連~~データを削除してしまっで以降で行われた操作の内容に、矛盾が発生する場合があります

たとえば、レコードが無かったので他者が同一キーでレコードをすでに新規に作成してしまっていることもあります

このようなことを考えると、フラッシュバック・クエリで削除してしまったデータを表示させて、ユーザーにキー入力させるか、アプリケーションで対応することが推奨されます

削除レコードの検索方法

```
SELECT * FROM <表名> as of timestamp
to_timestamp('2018-03-05 11:01:00' , 'YYYY-MM-DD HH24:MI:SS' )
BEFORE
WHERE BEFORE.<キー列名> NOT IN
( SELECT AFTER.<キー列名> FROM <表名> AFTER ) ;
```

指定時間のタイミングでのレコードの値表示の実行

（フラッシュバック・クエリ）

```
SELECT * FROM <表名> as of timestamp
to_timestamp('2018-03-01 15:25:50' , 'YYYY-MM-DD HH24:MI:SS' )
WHERE <抜き取り条件> ;
```

削除済データを削除前まで巻き戻すための SQL 文作成

ゴミ箱の中のオブジェクト検索

```
SELECT object_name , original_name , type , droptime , ts_name
       FROM recyclebin ;
```

削除テーブルのオブジェクト自体の復元

(フラッシュバック・ドロップ)

```
flashback table "<オブジェクト名>" to before drop ;
```

オブジェクト名 例 : "BIN\$AU0JI7esAv3gRACQmYC99Qw6\$0"